

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人奈良女子大学

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としている。第3期中期目標期間においては、①古都奈良に生まれ育まれた日本文化の洞察を通じ、ローカルかつグローバルに活躍できる女性リーダーを育成すること、②基礎物理学・分子科学・基礎生物学・高エネルギー物理学を中心に理工系諸分野の研究を進め、女性リーダー育成モデルを構築すること、③新たなライフスタイル創造の教育研究拠点を形成し、担い手としての女性リーダーを育成することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、6年一貫教育プログラムの策定するほか、大和・紀伊半島学研究所を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教育拠点として、俯瞰力、独創力並びに高度な専門性を備えた「知のプロフェッショナル」としての博士人材を育成するため卓越大学院「文化工学プログラム」（副専攻プログラム）の開設の準備を進めており、様々な団体（お茶の水女子大学、福岡女子大学、京都女子大学、JST社会技術研究開発センター（RISTEX）、奈良県吉野郡下市町、大阪府茨木市等）、個人と提携し、協力を得ており、平成29年12月には、その連携・協力団体、個人を招聘し、「卓越大学院シンポジウム『文化工学』の確立を目指して！」を開催し、67名の参加を得ている。（ユニット「文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成」に関する取組）
- 日本の国家や文化、宗教の発祥の地に足場を置いた日本文化交流研究の拠点を新設するため、「大和・紀伊半島学研究所」を共生科学研究センター、古代学学術研究センター及び文学部なら学プロジェクトを基盤とし、平成30年3月に設立し、大和・紀伊半島地域を中核とした総合的な研究の実施及び研究への支援を行う体制を整備している。（ユニット「大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 教員を中心とした大学説明会の実施による志願者増加

平成29年度には全国8カ所の予備校（金沢、東京、浜松、名古屋、大阪、神戸、広島、福岡）において大学説明会を開催しており、説明会の会場には、当該地を出身地とする学生が参加し、受験生により近い立場から受験や学生生活についてのアドバイスを行うほか、新たに2会場（名古屋、東京）で、教員による模擬授業を実施しているとともに、外部組織が主催する合同進学ガイダンス4会場（仙台、東京、名古屋、大阪。平成28年度は2会場）、及び高等学校4校（山口、栃木、兵庫、奈良。平成28年度は2校）に教員を派遣し、学問の面白さと大学で学ぶ楽しさを発信しており、平成30年度学部入試における志願者数は2,182名で、前年度に対して4.7%増加している。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ ライフイベントによる退学者への支援

ライフイベント（出産、育児、介護）によりやむなく研究を中断・断念している博士人材への支援策として、出身大学を問わず博士後期課程在籍経験のある博士号未取得者に対して、入学金を徴収せず、博士後期課程における既修得単位を10単位まで認める再チャレンジ型女性研究者支援制度を新たに制定し、平成30年度実施入試から本制度による入学者を募集することとしており、ライフイベントによりやむなく研究を中断した者への実効性のある支援策が提供されるとしている。

○ 海外へ留学する学生の増加に向けた取組

新たにスカイプによるオンライン・マンツーマン英語レッスンを、平成29年度後期開講科目「アドバンスト・イングリッシュBⅡ」の授業外課題として試験導入するなどした結果、海外留学した学生が122名と前年度から19名増加しており、平成30年度から、留学希望学生の国際性涵養と英語力向上を目的として、オンライン・マンツーマン英語レッスンを組み込んだ「Global Studies and Communication」として新規開講することを決定している。

○ 6年一貫教育プログラムの策定

学生を知識、感性、主体性を兼備した優れた女性リーダーとして成長させるために、学士課程と修士課程を通貫した6年一貫の教育プログラムを策定し、平成29年度学部入学生から選択可能にしており、学部生の中に大学院科目を先行履修することを認め、長期にわたる留学やインターンシップ、調査等が、卒業・修了単位として認められる自由度の高い学修設計を可能にしている。